

韓統連大阪通信紙

自主

チャジュ

350号

2020年4月号

자주

発行 在日韓国民主統一連合  
(韓統連) 大阪本部

〒544-0034

大阪市生野区桃谷3-13-6

TEL06-6711-6377 FAX06-6711-6378

毎月1日発行 購読料 年間3000円

郵便振替 00940-7-314392

民族時報社 大阪支社

## 「連動型比例代表制」により、進歩政党の国会進出を促進しよう！

### ●初めて導入された「連動型比例代表制」

4月15日に実施される第21代韓国国会議員選挙で、初めて「連動型比例代表制」が導入されることになりました。総議席数は従来通りの300議席で、その内訳も従来通りで地方区が253議席で比例代表が47議席です。その比例代表の47議席のうち30議席について、初めて「連動型比例代表制」が導入されることになりました。

さて、その「連動型比例代表制」とはどのような制度なのでしょう？

### ●地方区の獲得議席数と比例の政党得票率を連動させる

韓国は小選挙区制なので、地方区はほとんどの場合、巨大政党で議席を分け合うこととなります。与党である「共に民主党」が130議席、第1野党の「未来統合党(旧、自由韓国党)」が80議席獲得したとしましょう。

「未来統合党」が比例で30%得票した場合、300議席をそのまま政党の得票率で配分すれば300議席×0.3(30%)なので90議席獲得できることとなります。ここで「連動型比例代表制」が登場します。未来統合党はすでに地方区で80議席獲得しているので、90議席(比例配分予定議席)－80議席(地方区獲得議席)＝10議席となります。ただし改正選挙法は、最終的に「連動率50%」と定めたので実際に配分されるのは、10議席×0.5(50%)＝5議席となります。したがって「未来統合党」の獲得議席は、地方区80議席＋比例5議席の合計85議席となります。

「共に民主党」が比例で40%得票した場合は、

300議席をそのまま政党の得票率で配分すれば300議席×0.4(40%)なので120議席獲得できることとなります。しかし、「共に民主党」はすでに地方区で130議席獲得しているので、120議席(比例配分予定議席)－130議席(地方区獲得議席)＝－10議席となり、比例の議席は1議席も配分されません。

### ●支持率3%の小政党でも4議席が獲得可能

朴槿恵政権時代に強制解散させられた統合進歩党の流れをくむ民衆党が比例区で3%の得票率を獲得した場合、300議席をそのまま政党の得票率で配分すれば300議席×0.03(3%)＝9議席となり、連動率50%なので9議席×0.5(50%)＝4.5≒4議席となります。民衆



▲投票を呼び掛ける青年たち、プラカードには「あなたの投票が歴史を作ります」と書かれている

党は地方区で獲得議席がゼロなので、そのまま比例区で4議席が配分されます。

以上見てきたように大政党による議席の独占を許さず、地方区の獲得議席と比例の政党得票率を連動させることにより、小政党の議会進出を保障しようというのが「連動型比例代表制」です。

「連動型比例代表制」の導入により、小政党であっても支持率3%を獲得すれば国会で4議席獲得することができることになったのです。

立法趣旨に反して比例選挙用の政党を結成するなど複雑な動きがありますが、あくまで立法趣旨に従って小政党である進歩政党の国会進出を促進する選挙にすべきだと思います。(金五)

## 24年間に及ぶ支部活動の成果と 新たな活動に向けた決意を共有する 第11次韓統連生野支部会員総会

1996年から日本で最も多くの在日同胞が居住する大阪市生野区で、朝鮮半島の自主的平和統一の実現に向けた活動を行ってきた韓統連生野支部が3月15日(日)、生野区民センター(大阪市生野区)で「韓統連生野支部第11次会員総会」を開催した。

総会では、金昌範(キム・チャンボム)韓統連生野支部代表委員が挨拶を通じ「今日の会員総会をもって生野支部は解散します。今日、提案する活動総括について皆さんと共有し、今後、より運動を発展させていくための総会にしたいと思います。ご協力をお願いします」と語った。



▲代表委員挨拶をする金昌範代表委員

次に、金隆司(キム・ユンサ)韓統連大阪本部代表委員が「1996年、韓統連北大阪支部、生野支部、東大阪支部の3支部が結成され、その中でも生野支部は様々な支部独自の活動を行い、成果を残してきました」と述べながら、「今日、生野支部は解散しますが、生野支部が獲得した成果は今後、韓統連大阪本部が継承し、学習事業などをより充実したものにしていきます」と挨拶した。

続いて総会では「第10期総括総論」が提案された。総括総論では▲地域支部出帆と日常活動の

定着、▲南北和解の気運とともに、▲「愛国論」の地域化—歴史学習の計画的運営へ、▲地域連帯運動の端緒など、生野支部結成から現在までの主な活動を年代ごとに整理し、▲支部主催による韓国語教室の開講、▲「生野ウリ同胞フェスティバル」の開催と「6・15共同宣言を实践する生野地域の会」の結成、▲「ウリ歴史学習会」をはじめとする歴史・情勢学習会の開催などに取り組んできた活動の成果・課題について提案され、参加者の拍手で確認された。

そして、孫啓榮(ソン・ゲヨソ)副代表委員、金正樹(キム・ジョンソ)組織次長から、生野支部の活動を振り返りながら今後の抱負が語られ、会員総会は終了した。

総会終了後は、地域同胞及び日本人が参加する中、同会場で「交流のつどい」が開催された。交流のつどいでは、金昌範代表委員から会員総会の報告が行われた後、李鐵(イ・チョル)韓統連大阪本部常任顧問が乾杯挨拶を行い、各テーブルで食事を交えながら親睦と交流が図られた。



▲交流のつどいでの記念写真

その後、生野支部の24年間にわたる活動を振り返るスライド上映が行われるとともに、生野支部会員、来賓などからスピーチが行われ、最後に金昌範代表委員が閉会挨拶を行い、交流のつどいは終了した。



# 【翻訳資料】 「大邱とともに…」 光州とセウォル号の特別な連帯 ～ 孤立を経験した彼らが、孤立を経験している彼らに～

世界的に新型コロナウイルス感染が拡大する中、韓国では特に大邱（テグ）地域の感染者が多く、韓国全土から支援活動・支援物資が送られています。そうした中、セウォル号惨事遺族と光州市民の支援活動について韓国インターネット新聞で紹介された記事を紹介します。

2015年5月17日、5・18墓地の風景を思い出す。黄色いジャンパーを着た彼らは、光州を訪ねたセウォル号犠牲者の親たちだった。セウォル号の母が5・18の母に寄り添った。5・18の母の白いチョゴリに黄色いリボンバッジが付けられた。5・18の母は「身体が許す限り、私も皆さんと共に闘う」と語った。すぐに「私たちも一緒に闘います」という言葉が、セウォル号の母から返ってきた。5・18当時、光州の看護師だったアン・ソンレ氏（5月の母の家前館長）が「皆さん、どんな状況でも一人で苦しまず、お互いに力を与えてください。ご飯を食べなければ、ご飯を食べろと言い、泣き疲れば、泣かずに頑張ろうと言ってください」。

## ◆セウォル号の手指消毒液と 光州の特別談話文

壁は孤立を作る。壁のこちら側からは、壁のあちら側をありのままに見ることはできない。流れるままに孤立はわい曲を産み、わい曲は偏見を作り、偏見は恐怖を引き起こす。ついに恐怖は無視へとつながる。

逆説的に孤立の経験は壁を崩すこともある。孤立した者は誰の孤立も願うことがないため、その吐息と手の平は自然と移っていく。そして昨日の孤立が今日の孤立を温かく包み、今日の孤立が昨日の孤立を撫でさすったりもする。

1980年、孤立と向き合った光州は、2014年以後、孤立を経験したセウォル号遺族に「身体が許す限り、私も皆さんと共に闘う」と語った。「うんざりだ」という言葉に息を詰まらせていたセウォル号遺族は、依然として「アカ」として追いやられる光州の遺族に「私たちも一緒に闘います」と誓った。

去る5日、4・16セウォル号惨事家族協議会は自身の予算500万ウォン（約44万円）で購入した手指消毒液800本と後援を受けた物品を大邱に伝達した。犠牲者家族は自主的に846万ウォン（約74万円）を募金した。それだけでなく多くの市民が4・16連帯に協力し、約4180万ウォン（約366万円）を集めた。2つの募金額を合わせた約5千万ウォン（約438万円）が大邱に伝達される予定だ。募金の趣旨が書かれた

広報物には、このような内容が載せられた。「大邱住民たちは（コロナ19）感染の恐怖と孤立感の中で病魔との苦しい戦いを続けています。災難・惨事に立ち向かい、安全な社会を目指して先頭に立ってきたセウォル号家族と4・16連帯が大邱住民たち、特に障害者・移民・高齢者の方々と共にあろうと思います」。

去る1日、光州では「光州共同体特別談話文」が発表された。全国に大邱への応援があふれる中、光州の談話文はひときわ特別だった。光州広域市庁及び各区庁はもちろん、5・18団体など

一致団結して談話文に名前を連ねた。談話文にはこのような内容が載せられた。「80年5月、孤立した光州が決して孤独でなかったのは、光州と志を一つにした数多くの連帯の手助けがあったからです。今は私たちが恩を返さなければならない時です」。

光州とセウォル号がこのようにできた理由は、無視の隙間に入ってきたあなたの吐息と手のひらのおかげだった。「5・18は暴動ではない」と語ったあなたと「闘は光に勝つことはできない」と叫んだあなたが、光州とセウォル号をこのようにさせた。大邱が、いつかあなたの涙を拭うだろう。

### 세월호 가족과 4.16연대가 대구 취약주민들에게 방역물품을 긴급 지원합니다.

(코로나 19)의 확산으로 온 나라와 세계 시민들이 크나큰 어려움을 겪고 있습니다. 특히 확진자가 빠르게 늘어나고 있는 대구에서 주민들은 감염의 공포와 고압감 속에서 병마와의 일거은 싸움을 이어가고 있습니다. 재난·참사로부터 안전한 사회를 위해 앞장서온 세월호 가족과 4.16연대가 대구 주민들, 특히 장애인, 이주민, 취약층 어르신들과 함께하고자 합니다.

#### 1. 모금에 동참해 주세요.

▶ 모금 계좌 : 우리은행 1005-103-430634 4월16일약속국민연대

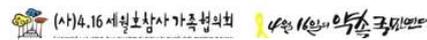
- 1) 기금 목적
  - 대구 장애인 단체와 이주노동자 단체, 취약층 주민을 위한 손세정제와 마스크 등 방역물품 구매
  - 선별 진료소 의료진과 자원활동가를 위한 물품지원
- 2) 전달 방법
  - 물품은 세월호 가족 순편지와 함께 세월호 가족과 대구 4.16연대가 직접 전달
- 3) 모금 방법
  - 3월 6일까지 1차 모금 진행
  - 목표액 1000만원



#### 2. 응원과 연대의 메시지를 남겨주세요.

- 모금 참여와 함께 설문양식에 따라 응원메시지를 남겨주시면 함께 전달하겠습니다

▶ 참여하기 <http://bit.ly/대구긴급지원>



### ▲세ウォル号遺族作成した大邱への 緊急支援広報物

## 韓青全国冬期講習会を振り返って

韓青大阪本部 金和容 (キム・ファヨン)

2月22日～24日まで、名古屋市内で第56回韓青全国冬期講習会が開かれ、全国各地から在日同胞青年が参加しました。今号では、冬期講習会に参加した韓青大阪本部の金和容さんに報告と感想を書いて頂きました。

韓青全国冬期講習会の参加は3回目になり、今回もテコンドー体験の企画を担当しました。

1日目の「慰安婦・徴用工のパネル展示コーナー」では、美術館みたいに様々なパネルが並べられ、あまりの出来のすごさに圧巻されました。丁寧に説明が書かれてあり、分けもされて見やすかったです。冬期講習会前に慰安婦問題について勉強はしましたが、今回のパネル展示のおかげで、疑問に思ったことも理解できて助かりました。

展示を見る前に、ドキュメンタリー映画を見ましたが、慰安婦にされた方々の生々しい証言には、本当に胸が抉られるような気持ちになりました。慰安婦・徴用工問題を早急に解決しなければいけないと改めて感じました。



### ▲パネル展示を見学する冬期講習会参加者

班別討論では、今の韓青や在日の現状と課題などを話し合いました。初めて常任班に参加しましたが、自分が思っていることを少しでも発言はできたかと思います。そして、他地方の現状を知ることができました。ただ、班別の内容が非常に濃くて複雑だったため時間内では結論が出ず、消化不良のまま終わってしまいました。

テコンドー体験では、文化発表のことを優先にしまったため、企画通りの内容が進行できなかったなど反省点がいろいろありましたが、発表

本番では発表者の皆が上手に蹴れて、会場が盛り上がったことが私自身うれしかったです。



### ▲素晴らしい蹴りを披露するテコンドー体験者

休憩時間中は、ミット持ちの人がいてくれたお陰で、一人一人の様子を見ながら教えることができました。また事務局の人も何人か参加されたのも良かったです。今後は発表練習と体験練習のバランスも考えて、参加者がより良く楽しめるために工夫をしていきたいです。

3日目の趙基峰 (チョ・キボン) 韓統連愛知本部代表委員の講演では、面白い話や衝撃的な内容もありましたが、今まで本気で活動をされてきた先輩の話の聞くと、半端な気持ちではいけないと改めて考えさせられました。講演後のバーベキューでもいろいろなお話ができて楽しかったです。

冬期講習会を通じて、常任として責任をもって活動していかなければならないことと、今度は自分が冬期講習会を運営する立場になるんだということが分かりました。

## 在日の友がいて、ぼくがいて

森本忠紀

韓統連大阪本部では、韓国語の個人レッスンを行っています。前号に引き続き、韓国語レッスンを受講している方々から、受講しての感想などを書いて頂きました。

去年の秋から週一回、金昌五(キム・チャンオ)さんから、ハングル(韓国語)の個人レッスンを受けるようになりました。日朝市民連帯・大阪、日韓平和連帯の偉大なる仲間、金昌五さんから親しくハングルの教わるができるようになり、幸運に感謝しています。

ハングルをもっと上達したいとは常々願っていたことではありますが、このたび習いたいと思った直接の動機があります。ソウルの水曜デモに行く度に、ぼくを待ってくださるリュ・ギョンワンさんから教わり、木曜日の良心囚救援の集会に参加するようになりました。その集会で梁元鎮(ヤン・ウォンジン)さんと出会いました。梁さんは日本語が堪能で、聞けば30歳から30年間、反共法違反に問われて服役されていました。そして自叙伝をプレゼントしていただきましたが、微笑みながら「韓国語は読めないでしょ」と小声でおっしゃいました。帰りの飛行機の中でそのことを思い出し、ぜひともこの自叙伝を読もうと心に決めました。帰国後、金昌五さんにハングルレッスンをお願いしたところ快諾を頂いたという訳です。

大和高田で、街宣一人活動をするようになりました。近鉄駅前に「朝鮮学校を守ろう」と大書した幟を立て、三線(サンソ)を弾き、幼保無償化適用要求署名を募っています。署名をしてくださる人、頑張ってと応援してくださる人、お話をしてくださる人、多くの人と接することができてありがたい限りです。「わたしは北朝鮮嫌い。嘘ばかりつくやろ。信用できへん」。朝鮮学校の幟を見てそう言われるのは、片手に大きな荷物をさげ、もう一方の手に杖を持ち、腰をかがみ加減に歩いて

来られた、年配の女性です。「荷物持ちましようか?」と言いたくなります。

「そうですか?何か嘘をつかれましたか?」「いいや、けどしょっちゅう出てくるやん。嘘ばかりついてるって」。喋り始めるととても元気です。「そうですか。ぼくは朝鮮・韓国を誇りに思ってるんですよ。希望がありますもん」「へーえ?」「ハッ、ハッ、ハッ。同じアジア人ですからね、ぼくたちは」。会話が自然に明るい調子に

なっています。「ましてや韓国・朝鮮と日本は昔から深い仲で、切っても切れない間柄、同じ仲間、兄弟じゃないですか」「まあ、嘘ばかりでないところもあるかもわからへんけどな」。署名は貰えなかったけど、「頑張るな」という励ましを貰って「また会いましょうね」と返しました。

嘘とごまかし、恫喝と暴力が黒雲のごとく蔽うこの日本で、それでもぼくが挫けず、前向きに生きていくことができるのは、どんなに厳しくても希望を見出していくことを、決して諦めない多くの素

晴らしい在日の友たちに恵まれているからだと思えます。このような在日の仲間たちと交わる日本人の輪が、願わくばもっともっと広がりますように。

結びに替えて平昌オリンピック開催の年に詠んだ、ぼくの朝日歌壇入選短歌を紹介します。

在日の友がいて ぼくがいて  
平昌(ピョンチャン)五輪  
祝う輪にいる



▲森本さん(左側)とリュ・ギョンワンさん



## 【コラム】

## 百済の仏教

三国時代、百済が日本に仏教を伝えたという話はご存知の方も多いと思う。『日本書紀』によると、552年(欽明天皇13年)に百済の聖明王(聖王)が使者を遣わし、仏像、経論などをもたらしたとされる。その伝来の年に関しては諸説あり、現在では別の史料に基づいた538年説が有力視されているが、日本に仏教を公に伝えたのは百済で間違いないだろう。

では、その百済に仏教がどのように伝わりその文化を花開かせたのか。使者を派遣した百済の聖明王はどのような存在だったのか。今回はそれについて簡単に紹介したい。

高句麗より遅れること12年、百済に仏教が伝わったのは、枕流王(ちんりゅうおう、チムニウワン)が即位した年だった。『三国史記』百済本紀には、384年(枕流王元年)にインド僧の摩羅難陀(まらなんだ)が東晋から渡来し、枕流王は彼を宮中に招いて歓迎したとある。翌年には仏寺を南漢山に建て、十人を僧侶とした。これが百済における仏教の始まりとなる。

さらに枕流王の息子の阿莘王(あしんおう、アシンワン)は即位の際に、人々に教書を下して仏法を崇信し福を求めよう布告した。仏教国家百済として堂々たるスタートを見せたといえるだろう。

しかし、その後の約一世紀半の間、正史から仏教関連の記述が途絶えることになる。この時期、広開土王率いる高句麗軍の南侵が激しくなり、百済にとっては試練の時代であった。阿莘王の時代には、王都漢山が襲撃され、漢江以北の地域が奪われる事態となった。百済は新羅や倭国と修好して高句麗の南侵と対抗したが、475年(蓋鹵王(がいろおう、ケロワン)21年)に漢山は陥落、南方の熊津(公州)へと遷都した。この時代、王都だった熊津から寺院遺跡は発見されているが、支配体制が崩壊し混迷する中、大規模寺院は建設されることなく、また史料が散逸したなどの理由

で、記録が残らなかったものと考えられる。

百済の仏教が再び大きく発展を見せるのは、聖王(在位523-554年)の時代になる。百済は外交を積極的に行って高句麗と対抗しつつ、中央集権化による国内の安定を推し進め、南方地域の統治体制を整備してきた。その集大成として聖王は538年(聖王16年)に泗泚(扶餘)に遷都し、広大な都市を建設していった。

また聖王は541年(聖王19)に中国の梁へ使節を送り、『涅槃経(ねはんぎょう)』などの義疏(解説書)と工匠・画師など仏教に関連した人物を招請した。新たな都に寺刹を築くためのものと考えられ、後に王興寺や弥勒寺など巨大寺刹の建設事業を支える技術となったことが推測される。

この頃に特筆すべき慶事が起こった。526年(聖王4)に謙益がインドから帰国し律宗を創始したことである。『弥勒仏光寺事跡記』にその功績が記されている。

「沙門の謙益は仏の教えである律を求めることを誓って海を渡り、インドの常

伽那大律寺で梵語を学ぶこと五年にして、天竺の言葉に通じ、律部を深く専攻し、その律礼は莊嚴たるものとなった。インド僧の倍達多三蔵と共に帰国して、梵語の経典、阿毘曇蔵(ブツダの教説の研究書・解説書)、律文五部をもたらした。百済の王は自ら王都を出て歓迎し、興輪寺において国内の名僧28人と共に、律部72巻を翻訳させた。これが百済の律宗の始まりである」。

これはインドから直接持ってきた梵語の原典を、中国の漢訳を経ずに自分たちの手で翻訳したという点で意義あることであった。百済をより大きな国家とするべく邁進する聖王にとって、この快挙は百済復興の大きな自信となったと思われる。

『周書』異域伝には「百済は僧侶と尼僧、寺塔が非常に多い」と記録されている。巨大寺刹をいくつも建てた百済の仏教文化の華やかな様子が伺える。(好)



▲百済の瑞山摩崖三尊仏